

平和記念だより

89

2023年10月

◆編集・発行/高松市市民政策局人権啓発課 高松市平和記念館
◆連絡先/高松市松島町一丁目15番1号 たかまつミライエ5階
〒760-0068 TEL(087)833-2211 FAX(087)833-2244

平和啓発事業開催

平和記念館では6月から8月にかけて、次のとおり平和啓発事業各企画展を開催しました。

6月24日(土)から7月5日(水)の間、高松市平和記念館において「高松空襲展」を開催しました。高松が空襲の被害に遭った7月4日を含む期間に、高松空襲の惨状を伝えるために毎年開催しています。高松空襲に関する写真パネルや絵画、年表等の資料を展示しました。また、映像学習室では空襲体験者のインタビュー映像を放映したり、体験談を掲示したりして平和意識の一層の高揚を図りました。今年度は会場の平和記念館だけでなく、「たかまつミライエ」1階ロビーにも展示場所を設け、広く市民の皆様にご覧いただけるよう工夫しました。テレビや新聞での紹介もあり、大勢の方にご来場いただきました。

7月13日(木)から7月19日(水)の間は、瓦町 FLAG 2階コンコースにおいて「高松市戦争遺品展」を開催しました。高松空襲の被害状況が分かる市街地図、焦土と化した市街地や戦時下の暮らしを写した写真パネル、戦争遺品など計81点を展示しました。今年度は、特集として「軍事教練・学徒動員」のコーナーを設け、軍事教練で使われた手旗信号や学徒動員先の様子を描いた絵画を展示して、戦争に翻弄された学校の様子、生徒や学生の生活を紹介しました。ことடன்瓦町駅改札前での開催ということで、戦争遺品展のことを知って来場された方だけでなく、瓦町駅やFLAGをご利用の多くの方に立ち寄っていただきました。

8月3日(木)から8月9日(水)の間は、市民交流プラザ IKÔDE 瓦町展示コーナーにおいて、高松市平和を願う市民団体協議会と共催で「原爆パネル展」を開催しました。原爆の被害状況を伝え、核兵器廃絶を訴えるため、広島・長崎の被爆後の惨状などの写真とその解説パネル24点を展示しました。併せて、広島ちとまちの被爆体験証言者からの聞き取りをもとに、広島市立基町高校で美術を専門に学ぶ生徒たちが描いた絵画20点を展示しました。

各会場にご来場の皆様、ありがとうございました。



高松空襲展



高松市戦争遺品展



原爆パネル展

教職員のための平和教育講演会

令和5年8月4日(金)、平和記念館において「教職員のための平和教育講演会」を開催しました。「高松市平和を願う市民団体協議会語り部部会」の浄土卓也さんを講師にお迎えし、「高松空襲について」の演題で講演をしていただきました。高松空襲で使われた B29 爆撃機や焼夷弾、被害状況について、熱意を込めて、そしてわかりやすくお話をいただきました。また、高松空襲での実話をもとにした浄土さん作の紙芝居「三十年目のぼくの遺骨」も披露され、戦争が生んだ悲劇について深く考えさせられました。その後、平和学習担当の職員が、高松市内の小中学生を対象に実施している平和学習を紹介しました。実際に平和学習で使っているパワーポイントや平和記念館の展示物を示しながら学習内容を説明しました。

参加者の声

■これから大きくなっていく子どもたちには、戦争のない世の中で生きていってほしい。そのためには、浄土さんの話や、自分が見聞きしたことを心に残し、つないでいくことを大切にしていきたい。

■平和学習の入門期にふさわしく、いろいろと指導を工夫されていると思いました。資料もイメージがわくような具体性のあるものだったり、先生の体験談や具体的なエピソードだったりしてよくわかりました。



浄土卓也さんの講演



平和学習の説明

証言 高松空襲

あの日わたしは

証言⑥ 川野賢二さん

空襲警報は解除になったが警戒警報は出たままだったので、灯火管制で暗い中じっとしていた。いきなり「ザーッ」という音とエンジンの爆音が聞こえた。外を見ると田町の商店街の屋根の上が燃えていた。私は、自転車に祖母を乗せ、以前から約束していた林村の国民学校近くにある母の実家をめざした。花園国民学校から南の田んぼのあぜ道沿いに自転車を押して歩いた。暗くて道に迷い、そこから高松が燃えるのを見た。夜が明けた頃、3機の B29 が焼夷弾を投下するのを見た。どうにか親類宅にたどり着き、後から父、兄、弟がやってきた。いつまでたっても母と妹は来なかった。

証言者プロフィール

- 当時 工芸学校2年生
- 住所 田町
- 家族 7人
父母、祖母
子ども4人
- 家業 洋服仕立業

平和映画☆上映会のお知らせ

平和記念館映像学習室において、次のとおり平和映画を上映します(無料)。

10月の上映 「凧になったお母さん(野坂昭如戦争童話集)」(45分)

日時▶ 開館日の土・日・祝、午後1時～

解説▶ B29が落とした焼夷弾で町は火の海になる。大勢の人々が逃げ惑う中、カッチャンはお母さんと近くの公園に逃げてきた。襲い掛かる炎により、体がカラカラになったカッチャンのために、お母さんにできることは、自分の体から出る汗や涙で潤してあげることだった。野坂昭如さん原作の戦争アニメーション。



11月の上映 「Paper Cranes Story ～ケンタとマイコ～」(27分)

日時▶ 開館日の土・日・祝、午後1時～

解説▶ 命ある折鶴のケンタとマイコ、そして大勢の仲間たち。一羽、一羽の折鶴には、折った人の平和を願う強い気持ちが込められている。戦争や災害のない世の中を願う人々の思いを伝えるため、戦地や被災地へと飛び立っていく折り紙の活躍を描いたアニメーション。



12月の上映 「あしたげんきにな～れ！～半分のさつまいも～」(90分)

日時▶ 開館日の土・日、午後2時～

解説▶ 東京大空襲で戦災孤児となったかよちゃんときいちゃん兄妹が、終戦直後の貧困と不安の時代を明るくたくましく生き抜いていく姿を描いた長編アニメーション。語りは吉永小百合さん、主人公かよ子の声は上戸彩さん。原作は海老名香葉子さんの「半分のさつまいも」。



※ 都合により、上映作品・期間等を変更することがあります。

▼今後の行事予定▲

11月

● 高松市戦争遺品等収蔵品巡回展

期日 令和5年11月2日(木)・3日(金・祝)

場所 中原文化センター

内容 市民の皆様から寄贈された戦争遺品等を展示

※ 都合により、開催を中止・延期する場合があります。



収蔵品
紹介 79

しゅうぎょうきねんしゃしんちょう

修業記念写真帖

寄贈者 黒口 浩二 様

表紙には「修業記念、昭和十七年一月入団、四等整備兵修業記念写真帖」とある写真帳。最初のページには旭日旗の絵葉書状のカラーの中厚紙が貼られている。続いて、佐世保鎮守府司令長官と「聖訓五ヶ条」の写真がある。庁舎の写真の上に、佐世保第二海兵団長ほか各写真が並ぶ。以降、40ページほどの写真帳の最後には隊員の名簿（原籍地、職名及等級、氏名）が掲載されている。

1942(昭和17)年1月、寄贈者の父親が20歳で海軍部隊に入団した際の記念アルバムである。その後、父親は、戦時下の数々の体験を書物に著した。



平和記念館「最近の寄贈品コーナー」で展示中

戦時用語解説 71

慰問袋

【読み】 いもんぶくろ

【分類】 戦時中の風習

戦地の将兵に色々な物を入れて送るための布袋。日露戦争の際、出征兵士に向けて婦人会が慰問品を袋詰めにし、慰問文を添えて送ったことが始まりとされている。中身は、手紙や絵ハガキといったメッセージから、缶入りのお菓子、ハンカチ、タオルなどの衣類や色鉛筆のような実用品も含まれた。特に、知恵の輪や紙将棋などのゲーム、小説や新聞、薬や煙草などが喜ばれた。

戦局が悪化し、物資不足になると、袋の中に入れるものがなくなり、慰問帳が慰問袋の代わりになった。慰問帳には、女学生が、写真を貼ったり絵や文章を入れたりした。

参考：「資料が語る戦時下の暮らし」
羽島知之 編著 麻布プロデュース

編集メモ

広島平和記念資料館では、2007(平成19)年度から、被爆体験証言者と広島市立基町高校生徒が共同し、原爆投下当時の状況を伝える「原爆の絵」の制作に取り組んでいます。8月にIKŌDE瓦町展示コーナーで開催した原爆パネル展では、この絵画のうち、20枚をお借りして展示しました。原爆体験の継承の一つの形として、原爆の悲劇を知ってほしいという願いが込められた絵画に、原爆パネル展にご来場の多くの方が見入っていました。



たかまつミライエ

高松市平和記念館（たかまつミライエ5階）

開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日：火曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始12/29～1/3

入館料：無料

▼ホームページアドレス（平和啓発の推進事業をご覧ください）

<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/jinken/keihatsu/heiwa/index.html>



▲QRコード

▶次回90号発行は、2024年1月です。